

# カゴノキ

●所在地／中山町出瀨小池 ●所有者／小池地区

クスノキ科。幹周は胸高<sup>かんしゅう きょうこう</sup>360cm、樹高<sup>じゅこう</sup>25m、推定樹齡250年。

この木の元の主幹<sup>しゅかん</sup>と思われる部分(60cm×4m)が枯死腐朽<sup>ふきゅう</sup>していて、現在の主幹が巻きこんでいる。

暖地の山林に自生する常緑高木<sup>じょうりょくこうぼく</sup>。成木の樹皮は灰色であるが、点々と丸い小薄片がはがれ落ちて跡が鹿の子模様になる特徴から「鹿子木<sup>かこのき</sup>」の名がある。コガノキ、カゴガシの別名もある。葉裏の細毛はやがて落ちて粉白色になり、表面は緑色である。

雌雄異株<sup>しゅういしゅ</sup>。花期は初秋、果実は1cm以下で翌年夏に赤く熟する。

材は建築、家具、楽器(鼓の胴<sup>つづみ</sup>)などに利用される。

